

福井港の沿革

福井港三国港地区は、古くは「三国湊」と呼ばれ、江戸時代には「北前船」の出入りする「北国7大湊」の一つに数えられ、越前・加賀の物資の集散地として繁栄した。

しかし、あばれ川と言われている九頭竜川の河口港であるため、多量の流下土砂による堆砂に悩まされていた。そのため、明治8年オランダ人である内務省技師エッセル氏により、九頭竜川改修を兼ねた港湾改修計画が策定された。延長500mにおよぶ捨石防波堤（いわゆるエッセル堤）の築造が行われ、西洋の技術を取り入れた我が国最初の近代港湾工事として、特筆されるべき大工事であった。エッセル堤は、三国港突堤として平成15年、国の重要文化財の指定を受けている。

明治30年北陸線の開通によって、物資の輸送は、漸次舟から鉄道に移り、船舶も大型化したため、時代の進展に取り残され、港勢は衰退の一途をたどった。

このため大正9年以来、県は航路維持をはかるべくポンプ船を常置し、港口維持に努めた。これにより大正12年には、1,000t級の船舶の入港が可能となり、石炭を始めとして取扱貨物量は約12万tにおよんだ。この間、大正11年には指定港湾となり、国においても重要視された。

その後、世界大戦により、ポンプ船の活動も思うにまかせず、港口に土砂が堆積し、小型船および漁船の根拠地として利用されるに過ぎなくなった。さらに、昭和23年6月この地方を襲った福井大震災により、港湾施設は大きな被害を受け、港湾機能は麻痺するに至った。

しかし、その後の数次にわたる改修工事により復興し、昭和38年には取扱貨物量も戦前の最盛期を凌駕し、昭和49年には121万tにも達した。

その間、県は、繊維産業を主力とする内陸工業に加えて、付加価値の高い基幹産業の導入による産業構造の改善と県民所得の向上を図るため、九頭竜川左岸に広がる三里浜に臨海工業地帯の造成を計画し、昭和46年3月港名を福井港と変更、昭和46年6月港湾審議会第46回計画部会では『福井港港湾計画』が新たに承認された。そして、昭和46年7月には重要港湾の指定を受け、掘込港湾の建設に着手した。

その後約20年の歳月をかけて、外郭施設として南防波堤、北防波堤、また公共係留施設として-10m岸壁3バース、-7.5m岸壁5バース、-7.5mドルフィン1バース、専用係留施設としてドルフィン3バースの建設を完了し、北地区が概成した。昭和61年には福井石油備蓄基地へのオイルインを開始した。その後、平成13、14年に相次いでセメントサイロが完成し、セメントメーカー3大グループのセメントサービスステーションが稼動するようになった。

また、平成5年からロシアからのアルミニウム、また平成6年からオーストラリア等からの石炭の輸入が始まり、外航船の入港は平成5年より徐々に増加し、平成15年には、46隻、平成16年には、78隻に達し、平成17年4月には、待望の関税法上の開港を果たし、また無線検疫港の指定も受けた。同時期にプレジャーボート等の不法係留対策として建設された「福井港九頭竜川ポートパーク」が供用開始し、三国町等が出資する第3セクターによる運営が始まった。さらに平成18年11月には、ロシアなどから製材の輸入も始まり、外航船隻数は192隻と倍増した。平成19年には、外航船の入港が208隻に達し、初めて200隻を突破した。

県では、嶺北地区の物流拠点港および工業港としての重要な役割を果たすべく施設の充実を進めるとともに、ポートセールスを展開して港湾の振興に努めている。

福井港の略史

年(西暦)	月	記 事
昭和43年(1968)	3月	『福井県総合開発計画』の策定
昭和44年(1969)	9月	『福井臨海工業地帯造成計画(マスタープラン)』策定
昭和45年(1970)	5月	『福井港港湾計画』策定
昭和46年(1971)	3月	港名を三国港から福井港に改称
	6月	港湾審議会第46回計画部会で『福井港港湾計画』を承認
	7月	重要港湾の指定
昭和47年(1972)	3月	『福井港長期構想』策定
	7月	福井港、福井臨海工業地帯起工式 北防波堤着工
昭和48年(1973)	1月	北陸電力(株)福井火力発電所運転開始
	3月	南防波堤着工 『福井港港湾計画』軽微変更
	5月	A. B地区工業用地造成のため埋立工事開始
昭和50年(1975)	7月	港湾審議会第68回計画部会で『福井港港湾計画』を改訂
	9月	F地区工業用地造成のため福井県企業庁が埋立工事開始
昭和51年(1976)	3月	A. B地区工業用地造成のため埋立工事完了 北防波堤完成
	9月	北地区(-10m)岸壁着工 古河アルミ専用-13m岸壁着工
昭和52年(1977)	7月	古河アルミ専用岸壁(-13m)完成
	11月	波除堤完了
昭和53年(1978)	3月	『福井県第三次長期構想』を策定 公共ドルフィン(-7.5m)完成 北1号岸壁(-10m)完成 北4号岸壁(-7.5m)完成
	6月	南防波堤(改良)着工
	7月	福井埠頭(株)(第三セクター荷役会社)設立 福井港湾事務所開所 福井港供用開始(第一船入港)
	9月	南防波堤改良(2,100m)完成 三国共同火力発電所運転開始 石油配分基地操業(オイルイン)開始
昭和55年(1980)	3月	港湾審議会第89回計画部会で『福井港港湾計画』を一部変更 北2号岸壁(-10m)完成
昭和56年(1981)	3月	県営北1号上屋完成
昭和56年(1981)	4月	初の外航船(ロシア船)入港

年(西暦)	記 事	
昭和56年(1981)	4月	サンセットビーチ整備(海岸緑地)完成
	6月	E地区工業用地(石油備蓄基地)のため 福井県企業庁が埋立工事開始
	9月	北10号岸壁(-7.5m)完成
昭和57年(1982)	3月	北3号岸壁(-10m)完成 北6号岸壁(-7.5m)完成
	4月	海上保安庁巡視船「あさぎり」(更新)配備
	10月	福井県産業廃棄物処理公社操業開始
昭和58年(1983)	2月	『福井港港湾計画』軽微変更
昭和59年(1984)	8月	『福井港港湾計画』軽微変更 福井石油備蓄基地の一点係留ブイ及び 海底パイプラインの建設工事の開始
	9月	輸入船(インドネシアのアルミ地金)初の入港
昭和60年(1985)	3月	港湾審議会第109回計画部会で『福井港港湾計画』を変更
	4月	港湾区域拡張
	7月	港則法の特定港指定
昭和61年(1986)	6月	福井石油備蓄基地オイルイン (113千kl * 30基 = 340万kl) (全国使用量の4~5日分)
平成元年(1989)	1月	『福井県新長期構想』を策定 『福井臨海工業地帯造成計画』を改訂 かつ『テクノポート福井基本計画』に改称
	3月	県営北2号上屋完成
	8月	港湾審議会第128回計画部会で『福井港港湾計画』を改訂
平成4年(1992)	4月	北8号岸壁(-7.5m)が完成
平成6年(1994)	4月	住友石炭鉱業の石炭ヤード完成
	6月	オーストラリアより石炭船入港
平成8年(1996)	4月	耐震岸壁Iが完成
平成9年(1997)	1月	ナホトカ号重油流出事故
平成12年(2000)	4月	重要港湾から地方港湾に格付け変更
	5月	特定地域振興重要港湾に選定される
平成14年(2002)	6月	太平洋セメント(敦賀セメント)福井港サービスステーションの稼動
平成15年(2003)	3月	宇部三菱・住友大阪セメント福井港サービスステーションの稼動
平成17年(2005)	4月	関税法の開港指定 無線検疫対象港の指定 福井港九頭竜川ポートパーク供用開始